

ダイドードリンコ(2590)



－ 自販機での相互販売に注目 －

2月26日に発表されたダイドードリンコの2016年1月期決算は売上高がほぼ横ばい、営業利益が小幅減益となりました。営業利益はコーヒー豆等の原材料価格の高騰による粗利益の減少で前期比3.6%減の49億円となったものの、自動販売機に関わる費用の減少などで計画を5億円近く上回っての着地となりました。

今期は主力の飲料販売部門が前期比1.5%増となる見通しで売上高は同2.0%の増収を確保する見込みです。営業利益は販促費増加などによるコスト増はあるものの、飲料販売部門の販売数量増と原価低減による粗利益の増加でカバーし、前期実績をわずかに上回る50億円となる見通しです。

ダイドードリンコでは4月からキリンビバレッジと自販機での相互製品販売を開始する予定です。ダイドーが主力の「ダイドーブレンド」シリーズのコーヒー飲料2商品をキリンビバレッジに供給する一方で、キリンビバレッジの「午後の紅茶」2商品をダイドードリンコが販売する予定です。

これはダイドードリンコにとって初の自販機での業務提携で、ある意味独立独歩でやってきたダイドードリンコにとって大きな方向転換にもみえます。ダイドードリンコのコーヒー飲料は強いブランド力を有しているだけに、こうした動きがキリンビバレッジ以外にも広がるかが注目されます。

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会